

センターだより

新教育課程に向けて

今、中学校で授業改善が進んでいます！

《中学校数学編》

新教育課程では、学力の3つの要素の一つである「思考力・判断力・表現力」を身につけるために、各教科において「言語活動の充実」を図ることが求められています。そのためには、知識伝達型の授業ではなく、子どもたち自身が自ら考え、友達と考えを重ね合わせながら、さらに深めていくような授業を展開する必要があります。

今回は、昨年の秋に実施された中学校数学科での「言語活動の充実」に重点を置いた公開授業の様子を紹介します。3つの授業の共通点は、**子どもたち自身が考える場があること、子どもたち一人一人が自分の考えを表現する場があること、その考えをもとに（グループの中で）考えを深める場があること**です。

中学校 2 年数学科「素因数分解」 授業者 山田東中学校 藤田悟巳 (12月3日実施)

従来なら、『素因数分解』の方法を学びその方法を使って練習問題をやる」といった授業展開で終わりがちな単元を、「素因数分解」の定義を理解したうえで、「素因数分解」の方法を一人一人が考え、その考えをグループで交流し、グループで考えをまとめ、全体で発表するという形の授業展開でした。

12の素因数分解の方法を考えよう (学習活動1)

どうやったらいいのかな？

①一人考えよう → ② 自分の考えをグループで伝えよう

一人で考える

自分の言葉で説明する

990の素因数分解の方法を考えよう (学習活動2)

① 12の考えをもとにグループで考えよう → ②発表ボードにまとめよう
 わかりやすく説明するためには、どんなふうにかいたらいいかな？

友達の考えと重ね合わせて考える

全体で共有化する

〈授業をみる観点〉

- ① 自分の考えや意見を記述できていたか
- ② 自分の考えや意見を発表できたか
- ③ グループの話し合いにより自分の考えを深めることができたか

自分の言葉で今日の学びをまとめる

授業を見る観点を上記の3点に絞りながら、事前の指導案の検討を中学校学研数学部会・授業活性化研究グループで行いながら実施しました。授業の中では、グループ交流場面で、友達の説明により個の理解が深まる場面や意見を重ねあわせながらやり方を考えている子どもたちの学びの場面をみることができました。さらに、授業後の研究会では、「より多様な考えがでてくるためにはどのような方法があったのか」等を議論しました。また、研究会では、グループごとの授業ビデオを活用しながら子どもたちの学びの姿に焦点を当て、協議を深めました。

パリポイト活用で素数を覚える



グループ交流 (990の素因数分解の方法を考えよう)

グループからの発表



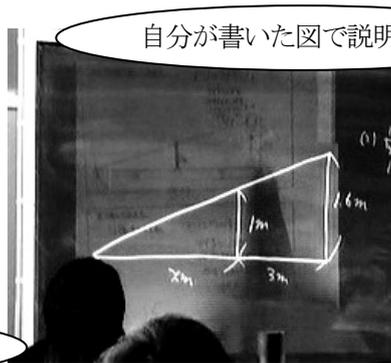
中学校3年数学科「図形の相似」 授業者 高野台中学校 得能通伸 (11月11日実施)

答えを言うことはできても、どのようにして考えたのか説明することはできない…。そんな子どもたちの実態をふまえ、「説明しやすくするため」の補助として、ICTを活用した授業に取り組みました。

相似の比の関係を利用して、実際に測ることの難しい場所の距離を計算する問題のプリントを配付しました。プリントには、問題の図形の周囲に文字や補助線をたっぷり書けるスペースがあります。まず、しっかり時間をとったのは自分で問題に取り組み、じっくり考えるところでした。また、隣同士、近くの者同士で確認したり話し合ったりすることも促します。その後、どのように答えを出したのか、相似な図形がどこになるのか、図形のどの部分の比を利用して答えを出したか、ということについては、実際に自分が書き込んだ補助線や文字を書画カメラで黒板に大きく提示して、子どもたちが自分の書き込みを見せながら説明できるようにしました。



拡大した図に書き込んで



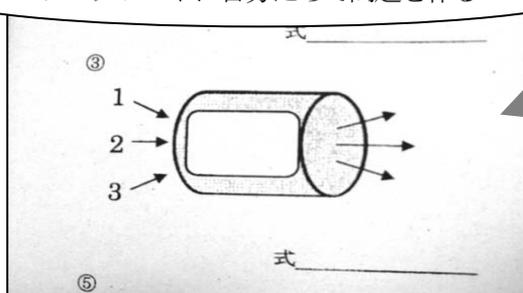
自分が書いた図で説明する

授業の中に、「自分で考える場」、「人と考える場」、「自分の考えを説明する場」をつくることで、子どもたちの思考力や表現力を育てようとする実践でした。

中学校1年数学科「比例と反比例」 授業者 豊津中学校 水野勇次 (11月4日実施)

単元の導入の場でグループ学習を取り入れたのが、中学校の初任者研修の代表授業でした。関数の意味についてブラックボックスを利用して視覚的にわかりやすく、また興味を持てるように工夫するだけでなく、比例の数量関係と式をグループで考え、クラスへの問題にすることで、比例の理解につなげました。グループ活動は何のためにするのか、教師が目的をはっきり持つておくことが大切です。この授業では、①グループの中で教え合いや学び合いをすることで、比例の数量関係について理解度の違いがある子どもたちの支援とすること、また②自分たちで問題をつくるという主体的な活動をすることで、意欲や関心を高めることを目的としました。

ワークシートに自分たちで問題を作る



まず、ブラックボックスのしくみ(式)を自分で考え、それから問題をグループで考えます。グループで、それぞれ自分が考えた問題を伝え合います。「それは簡単すぎるよ。」「その式にすると、出てくる答えは〇だね。」「小数を入れた方が難しくなるから…。」グループで相談して、最終的に自分たちのグループの問題をつくりました。

少人数の中で説明したり自分の考えを友だちに話したり、子どもたちにとっては楽しく自然な流れで活動していましたが、教師が意図して子どもの学びの場を深めるための「言語活動」の場を設定した実践でした。

今まで、どちらかといえば、吹田市の中学校では、「グループで考えを深め合う場を作る」ことについて、学習規律・学習進度等の観点から敬遠されがちであったのではないかと思います。3つの学校で、今回思い切ったチャレンジをされました。グループ活動を取り入れるにあたっては、「活動あって学びなし」にならないように、「学びにつながるグループ活動」であることを大切なポイントとしながら、今後、このような授業が吹田市内の中学校広がっていくことを期待しています。

広がれ、授業改善の輪！！

1月の研修報告

初任者・フレッシュ研修 異校種に学ぶ①②③

1月の初任者研修は、小学校の初任者が中学校の指導教諭の授業参観を、中学校の初任者が小学校の指導教諭の授業参観をして、小中それぞれの校種についての理解を深めました。中学校では、第五中学校の石井佳代子先生の3年英語科の授業を、また高野台中学校では榊貴恵先生の3年音楽科の授業を参観し協議して深めました。協議の後、中学校の生徒指導の実際や大切にしていることなどを中心に、第五中では山本直登先生、高野台中では船橋壮先生の講話を聞きました。小学校では、吹田第三小学校 後藤明弘先生の3年生音楽の授業を参観し、実技研修も行って授業について協議して深めました。協議後は「小学校で大切にしていること」などを中心に、千里新田小学校指導教諭 江下毅先生の講話を聞きました。9年間の連続した学びを支えていくために、小中の子ども達の発達や授業の特性について学ぶことができました。



特別支援研修 「223 事例研修・行動領域」「217 特別支援教育 Co. 研修・幼-小-中-高の引継ぎについて」

223 事例研修 ・行動

事例研修で取り上げたのは PDD (広汎性発達障がい)のある中学校生徒の事例でした。PDD は対人関係の築きにくさが課題となって現れます。助言者の井澤先生からは冗談やからかいを受け流すことや、対人関係の目標設定など、ソーシャルスキルへの支援について学びました。以下に参加者の方の感想を紹介します。

「中学生の話でしたが、小学校でどういふことをしたらよいのか、周囲の子ども達をどう育てたらよいのか、考えながら聞かせていただきました。」「自分のクラスにも同様の生徒がいて周りの子とうまくいかずに困ってましたので、参考になりました。」「自分の学校でも使えそうな支援の話などがあり大変勉強になりました。」

217 幼小中高の 引継ぎ Co. 研修

年度末の声を聞くようになり、引継ぎが気になる季節です。特に発達面に課題を持つ子の引継ぎは、必要な情報を確実に引継ぐ事がポイントとなります。研修では個人情報の保護に留意しつつ、「個別の指導計画」「担任の気づきシート」「校内委員会記録」「事例検討資料」の活用して引継ぐことが大切であるということ学びました。以下に参加者の方の感想を紹介します。

「今までに受けた研修内容の確認になりました。レジュメも整理されていたのでわかりやすかったです。」「今までの校内の『子ども情報』を整理しようと思った。」「本校でも生かせるように努力したいと思います。」「課題が認められなくなった子どもの引継ぎも大切」ということがよく分かった。」

2・3月の研修案内

「性同一性障害への理解」(109) 一性の多様性に対応した態勢をー

「性同一性障害」と診断された小学校男児が「女兒」として学校に通学することを認められたという事例が報道されるなど、今、「性同一性障害」への理解と対応が求められています。各学校・園で、先生方が接しておられる中でも、「ひょっとしたら・・・」と感じることが増えているのではないのでしょうか。
当事者である講師の方から、ご自身が小・中・高等学校時代どのように感じながら過ごされていたのか等の話を聞くことにより、理解を深めていきたいと思ひます。

- ◆日時 2月16日(水) 15:00～
- ◆場所 市教育センター視聴覚室(2階)
- ◆講師 NPO法人SEAN理事 佐倉智美さん

小学校英語研修 授業研修⑤(86)

千一小5年 英語ノート1 Lesson9「ランチ・メニューを作ろう」

本格実施を目前に迫った小学校外国語活動。本研修では、「英語ノート指導資料」に示されている内容に基づいた研究授業を行います。栄養三色を意識したバランスのよいオリジナルメニュー作りにも挑戦させることで、外国語活動と家庭科との連携も取り入れます。講師には、関西大学の竹内先生をお迎えして、指導・講評ならびに「新学期から小学校外国語活動を行うために」と題してのお話をうかがいます。

- ◆日時 2月18日(金) 14:35～
- ◆場所 千里第一小学校5年1組教室・高学年図書室
- ◆授業者 千里第一小学校 矢頭 仁美教諭
- ◆講師 関西大学外国語学部長 竹内 理教授

2月・3月 教職員研修予定

講座名	番号	研修テーマ・講師名・概要等	会場	日時	対象
ライフステージ に あ っ た 研 修	27	「学級経営の実際」「児童・生徒への指導の実際」 「教職2年目に向けて」(講話・グループ協議等) 吹田市立教育センター所長 廣嶋 豊子 吹田市教育委員会指導主事 「プロのインストラクターから学ぶ技」 NPO法人 いきいきのびのび健康づくり協会 理事長 梅本 道代先生	千里たけみ小学校 ランチルーム (1階)等	3月25日(金) 13:00～	小・中学校初任者教員 新規採用養護教諭 新規採用栄養教諭 新規採用事務職員
専門職研修	106	「特別な支援が必要な子どもへの理解」 千里たけみ小学校指導教諭 森田 安徳	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月22日(火) 15:30～	学校事務職員
	109	「性同一性障害への理解」一性の多様性に対応した態勢をー NPO法人「SEAN」理事 佐倉 智美先生	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月16日(水) 15:00～	養護教諭 教職員
教科領域別研修	86	授業研修(第5回) 研究授業5年「英語ノート1 Lesson9」・研究会 授業者 千里第一小学校教諭 矢頭 仁美 講師 関西大学外国語学学部長 竹内 理先生 「新学期から小学校外国語活動の授業を行うために」 ※英語担当者会と兼ねる	千里第一小学校	2月18日(金) 14:35～	小学校教職員および 中学校英語科教員
情報教育研修	316	「Excel2003を活用したマクロ初級講座」 ICT支援員 田畑 俊秀さん	教育センター 情報科学室 (2階)	2月25日(金) 15:30～	教職員
	338	ICT機器を活用した授業実践報告会<パネルディスカッション> ～ICTを活用したより良い授業づくりに向けて～ パネラー 吹田市小・中学校 教諭4名 指導助言 和歌山大学教育学部准教授 豊田 充崇先生	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月21日(月) 16:00～	情報教育推進委員および 小・中学校教職員
	331	【公開授業】「ICT機器を活用した公開授業⑦」 小学校理科での取組 6年生 単元『てこの規則性』 授業者 山手小学校教諭 南原 志昭 ※小学校学研視聴覚部との共催になり授業のみとなります。	山手小学校	2月16日(水) 14:00～	教職員
	332	【公開授業】「ICT機器を活用した公開授業⑧」 中学校道徳での取組 2年生 主題『自然愛護』 授業者 豊津中学校教諭 佐藤 弘宣	豊津中学校	2月22日(火) 14:30～	教職員

※各講座の詳細は、各学校・園ごとに送付します実施要項をご覧ください。

★2月14日(月)14:00～ 大阪府教育センターにて「大阪府教育研究所連盟 研究発表大会」が開催されます。

特別講演「臨床・認知科学・神経行動学からみた発達障害」

講師 京都大学大学院教授 十一 元三先生

※詳細は、学校に送付しております実施要項を参照してください。